



いよいよ、本年度しめくくりの3月

児童玄関のありがたいの木が、「ありがたいの葉」でいっぱいになりました。年度末を迎えるこの時期、児童・教職員の温かい言葉が寄せられたカラフルなこの木を見ると、1年間の教育活動がしめくくりを迎えていることを実感します。寄せられた「ありがたいの葉」は、毎日の給食時の放送で読まれ、全校で共感してきました。教室での学習や生活はもちろん、さまざまな行事、わくわくタイムの活動、休み時間の遊びなどを通して「ありがとう」のメッセージを交わしてきました。この他、至る所に今年度の児童の成長の跡が残っています。3月は、それらを振り返って整理し、4月からの新しいスタートに備えていきたいものです。新年度リセット。これが学校生活の特徴です。ただし0(ゼロ)からではありません。積み重ねてきたことを確かなものにするのが備えです。



↑ R6.5月

R7.2月



【3月の行事予定】

*○数字は校時, [わ]はわくわくタイム

2/28 現在

日	曜	行事等	日	曜	行事等
2	日	家庭人権学習の日	21	金	サーキット/読書
3	月	全校朝会	24	月	修了式(1~5年), 離任式
4	火	委員会活動⑥	25	火	学年末休業日(～3/31:月)
5	水	[わ]地域子ども会	【4月の主な予定】		
7	金	サーキット/読書	4/1	火	学年始め休業日(～4/7:月)
10	月	全校朝会, 公開授業日, アラーム訓練	8	火	着任式, 始業式
11	火	※制服 卒業式予行演習②～	9	水	※制服 入学式
12	水	※制服 6年修了式②, 会場設営(4,5年)④, 大掃除⑤, ☆5時間授業(下校 14:50)	10	木	身体測定
13	木	※制服 卒業証書授与式9:30～(下校 6年式後, 1~3年11:00, 4・5年11:40)	11	金	地域子ども会
14	金	サーキット/読書	14	月	1年生給食開始
17	月	全校朝会	15	火	委員会活動⑥
18	火	学級の時間⑥(4・5年)	16	水	教職員研修会のため13:00下校
19	水	学校安全の日	17	木	全国学力調査(6年), 県ステップアップテスト(5年)
20	木	☘春分の日	18	金	交通安全教室(1年), 1年生を迎える会
			21	月	～22(火) 家庭訪問
			25	金	授業参観日, 学年部会, P T A 役員会

※ 変更になることもございます。ご了承願います。

3月 家庭人権学習の日

～ご家族で、人権について話してみましょ～

2024年度 阿南市人権教育研究大会 ～講演～ より (阿南市文化会館；2025.2.11)

□演題 **失敗しないためのジェンダー表現** ー無意識に誰かを傷付けないためにー
新聞労連元特別執行委員 乾 栄里子 さん

□そもそも『ジェンダー』とは

『ジェンダー』とは、オス・メスという生物学上の性差ではなく、社会的・文化的につくられる「男らしさ」「女らしさ」を意味します。例えば、日本の場合、「男は外で働き、女は家庭を守るもの」という「男らしさ」「女らしさ」がありました。つまり、仕事をするのは「男らしい」、家庭を守るのが「女らしい」というジェンダーがつけられていたのです。これはある意味、男性中心の社会にとっては都合の良いジェンダーであり、これが男女不平等の要因にもなっていました。

あくまでも『ジェンダー』は、生物学上ではない「男らしさ」「女らしさ」の概念(とらえ方)で、特定のあり方を意味するものではありません。生物学上の「男らしさ」「女らしさ」は変わることはありませんが、ジェンダーは時代と共に変化していきます。

□講演の概要



1) 今、行政や民間企業の情報発信でのジェンダー表現が、至る所で炎上する

→ 女性を性的対象物として扱う、旧来の性別役割の押し付け、「女性はこうあるべき・こういうものだ」というジェンダーステレオタイプ(先入観、偏見)の強化や押し付け

◎ 性差別に対する人権感覚を持ち、人を傷つけない情報発信が大切

2) 表現の問題

→①性別役割分業 ◆「内助の功」「女房役」←妻は夫を支えるものという性別役割を強化

◆「育児や家事を手伝っている」←従属的な立場で参加する。カップルで協力すべき

◆「父兄のみなさん」「元行政マン」←子どもを保護する人、社会で働く人=男性との固定観念を強化

→②無意識の偏見と男尊女卑 ◆Q&Aで男性が説明役、女性が聞き役←女性は無知だとの無意識の偏見

◆「女性におすすめのワイン」←味覚は男女ではなく個人で違うもの

→③過剰な性別表記 ◆「女子高生,女子アナ,女社長,女医…」←男性には使わない。固定観念への助長

◆「男泣き」「男だろ」←男性は強いとのステレオタイプの助長。「男らしさ」の押し付け

◆女の子はピンク、男の子はブルー←好きな色やものは性別と無関係

→④性の商品化 ◆「美しすぎる○選手」「美しすぎる市議」←外見に基づく差別(ルッキズム)

◆「山ガール」「リケジョ」←「本来、男性の分野である」との偏見を助長

◆女性をアイキャッチャーとして使う(商品紹介,プレゼンター)←女性を「華扱い」(性差別)

3) ウェブで起きていること

→○見出し加工 クリック数を稼ぐため、よりセンセーショナルに



4) まとめ

・ジェンダー表現のゆがみが生まれる背景には、男尊女卑思想や性差別が潜んでいる

→だれもが発信者となる時代。人権問題と捉え、考える必要がある

・メディアも組織のジェンダーバランスはいびつで、男性優位社会。

→受け手側がその構造を理解し、ニュースの表現や報じられ方に疑問を持ってほしい

・当事者から遠くにいて、被害経験や傷ついたことのないような多数側の人々が「無自覚の罪」を自覚することが、社会の変革につながる。特に、男性の問題意識の向上が大切